

聴覚障害者及び視覚障害者のための大学

筑波技術大学ニュース



国立大学法人

筑波技術大学

第 27 号

発行日：2013年 3 月

www.tsukuba-tech.ac.jp



筑波技術大学では、大学のイベント情報や最新のニュースなどの様々な情報を提供するメールマガジンを配信します。ご登録は、登録用 URL (http://www.tsukuba-tech.ac.jp/mail_magazine) 又は QR コードから行えます。みなさまのご登録をお待ちしております。



平成 24 年度筑波技術大学学位記授与式を筑波技術大学天久保キャンパス講堂にて挙行了しました。大学卒業生 67 名、大学院修了生 4 名に学位記及び修了証書が授与されました。

(関連記事は 2 ページ目をご覧ください)

● 平成 24 年度学位記授与式を挙



3月15日、天久保キャンパス講堂において、平成24年度学位記授与式を挙行しました。授与式には、晴着姿の卒業生や、卒業生の保護者・家族、来賓などで式場が一杯となるなか、村上学長が卒業生一人ひとりに「おめでとう」と声をかけながら学位記を手渡しました。

村上学長は式辞の中で、一昨年の東日本大震災、昨年のつくば市北条地区の竜巻被害について触れ、「困難な現実に向き合った経験は、これからの人生でかけがえのないものとなるに違いありません。絆を大切にするとともに、経験を糧として自らの人生を拓き、夢を実現できるように努力してください」と述べられました。

これに対し、卒業生を代表し産業技術学部産業情報学科の松岡道浩さん及び保健科学部保健学科の渡部良平さん、技術科学研究科の瀬戸山浩平さんから謝辞がありました。

渡部さんは、「筑波技術大学の卒業生として社会に貢献できるよう、現状の知識や能力に甘んじることなく、生涯にわたって学ぶ姿勢を忘れずに、自己の向上に努めてまいります」と力強い決意が述べられました。

産業技術学部39人、保健科学部28人、大学院技術科学研究科4人の計71人に、学位記及び修了証書が授与されました。卒業生の今後の活躍に期待します。

(総務課総務係)



● 東日本大震災復興支援イベントに参加

3月11日、文部科学省の東日本大震災復興支援イベントに参加しました。文部科学省及び各機関が取り組んできた復旧・復興活動等についての理解増進と被災地支援の風化を防ぎ、今後を見据えた支援につなげる目的で開催された今回のイベントに、本学はモバイル型遠隔情報保障システムによる被災地の聴覚障害学生の授業支援をテーマに参加しました。

会場となった文部科学省前の霞テラス中央ひろばには全国54大学・関係機関のブースが並び、多くの来場者で賑

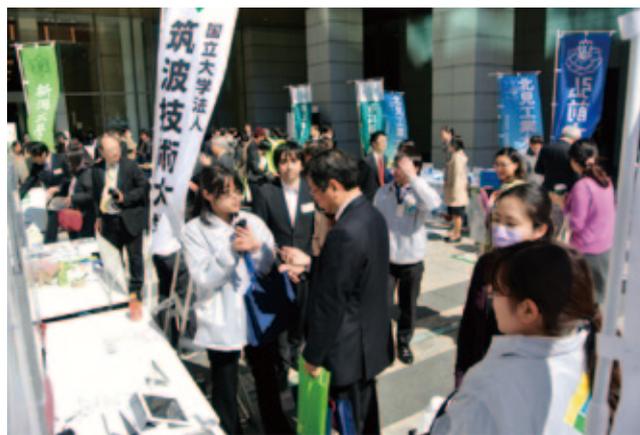
わいました。本学のブースにお越しいただいた、下村博文文部科学大臣や森口泰孝文部科学事務次官、また、多くの来場者の方々は、モバイル型遠隔情報保障システムによるスマートフォンを使用した文字通訳の仕組みや活用方法等に関心を寄せていました。

地震発生時刻14時46分には参加者全員で1分間の黙祷が行われ、犠牲者の冥福をお祈りしました。

(総務課企画・広報係)



本学ブースにて説明を受ける下村大臣



会場の様子

● 学生の作品が筑波研究学園都市50周年記念ロゴに決定



筑波研究学園都市50周年記念ロゴと
受賞者の須崎さん

つくば市内の研究機関等で作る筑波研究学園都市交流協議会が公募した「筑波研究学園都市50周年記念ロゴマーク」に、産業技術学部総合デザイン学科2年の須崎陽子さんの作品が採用され、1月31日に表彰式が開催されました。また、優秀作品賞には3年の片岸修斗さんの作品も選ばれました。ロゴマークは、つくば市で開催される多数のイベントや企画で活用される予定です。



表彰式後の記念撮影
(手前) 左から2番目が須崎さん、右端が片岸さん

市内3大学である筑波大学・筑波学院大学・本学の学生を対象とした今回の公募には、本学からも数名の学生が応募しました。応募総数17作品の中から選ばれた須崎さんの作品は、「科学のイメージを水色で表し、筑波山を表す黄色の部分は未来に羽ばたいていくように」という思いが込められています。形状と色の数を絞り、ロゴマークとしての完成度の高さが評価されました。

(広報室)

● 視覚障害者の就業の疑問に答える講座を開催

「視覚障害者に何ができるかわからない」「どの部門に配属させたらよいか分からない」、このような企業からの要望を受け、1月23日に春日キャンパスにおいて「視覚障害者の就業の疑問に答える講座」を開催しました。当日は、視覚障害に関する様々な講義後、学生3名によるパソコン操作のデモンストレーションを実施し、全日空、野村総研、NTT データ、富士通等 29 企業の人事担当者 33 名が参加しました。

序盤には視覚障害の特徴や、視覚障害者が従事できる仕



デモンストレーションする学生

事の説明、視覚障害者を受け入れた企業への公的支援制度について本学教員より説明がありました。中盤では、ヘルスキーバーを導入している株式会社クラレつくば研究所の米原徹氏による「ヘルスキーバーのメリット・デメリット」と題した講演があり、さらに、本学の前身である筑波技術短期大学 OB で株式会社日立システムズの穂刈顕一氏による就業時の体験等を交えた講義が行われ、「視覚障害は全く見えないと思われがちだが、人によって障害の度合いも異なる」という話がありました。終盤には、在学生によるパソコン操作のデモンストレーションを実施し、文字読み上げソフトを使用したプログラミング作業を見ていただきました。参加者からは、感嘆の声も聞かれる場面もあり、業務処理能力について理解を得ることができました。

当日実施したアンケート結果も好評で、今後の視覚障害者の職域開拓に関して大きな一歩となりました。

(情報システム学科 隈 正雄)



講演する穂刈氏

● 聴覚障害者の就労に関するシンポジウムを開催



講演する佐原氏

2月12日、企業の人事・採用担当者や学生・教職員を対象とした、産学連携セミナー「聴覚障害者の就労に関するシンポジウム」を開催しました。大卒聴覚障害者の就労時及び転職時において起こる課題について改善策を探ることを目的とした本シンポジウムの開催は、今年で第6回目となります。当日は企業関係者 26 名 (22 社)、学生 58 名、教職員 19 名、計 103 名が参加しました。

今回は、外部講師 3 名のうち、2 名に卒業生を招き、在学生の就労に関する意識を啓発することを重視しました。

まず、ソフトバンクモバイル株式会社の佐藤和博氏より「ソフトバンク通信 3 社 障がい者雇用について」と題した講演が行われ、続いて、卒業生講演として産業情報学科卒業生で三菱重工業株式会社に勤務する水口貴稔氏、及び、総合デザイン学科卒業で株式会社廣済堂に勤務する佐原実



講演する水口氏

歌氏による「就労に備えて学生時代に準備すべきこと」と題した講演が行われました。

シンポジウム後半には就職委員会委員長の石原保志教授の司会進行のもと、「学生時代に意識し学んでおくべきこと」をテーマとしたディスカッションが行われ、参加者からの質問に対して、講師だけでなく会場の方からも積極的な発言があり、様々な課題を共有・検討することができました。

(聴覚障害系支援課学生係)

● 事務職員を対象としたSD研修会を開催

2月5日、事務職員の資質・能力の向上を図るとともに、能力開発、意欲の向上を目的とした平成24年度第1回SD研修会を実施しました。今回の研修会では、学外研修に参加した職員2名による研修報告、及び、石川護理事・事務局長からの特別講演を実施しました。



講演会の様子



研修報告を行う井上氏、鈴木氏

初めに、平成24年9月に開催された「大学間連携SD研修会（主催：FDネットワークつばさ）」に参加した聴覚障害系支援課の井上真優子氏から、講義やグループワークを通して、広い視野を持つことや積極的な発言の重要性を学ぶことができ、今後の業務改善等に活かしていきたいという報告がありました。続いて、平成24年12月に開催された「国立大学法人等若手職員勉強会（主催：国立大学協会）」に参加した総務課の鈴木茂樹氏からは、分科会や情報交換会を通して、他機関の職員との交流を深めるとともに、国立大学等を取り巻く環境及び今後の課題について学ぶことができたという報告がありました。また、石川理事・事務局長からは、これからの大学職員に求められるものと題し、今後、筑波技術大学の職員として成長する中で、求められる能力や組織運営のあり方等について講演をいただきました。

報告会終了後の質疑応答では活発な意見交換があり、大変有意義な研修会となりました。

（総務課人事係）



講演する石川理事・事務局長

● 医療安全研修会を開催

1月30日、東西医学統合医療センターでは自治医科大学医療安全対策部教授の長谷川剛氏をお招きし、今年度2回目となる医療安全研修会を開催しました。長谷川氏は、呼吸器外科で診療に従事するとともに本国の医療安全対策のパイオニアとして活躍されています。

研修会には、当センターのスタッフや産業技術学部の教職員を含め、35名が受講しました。講義では、本邦における医療安全の歴史やその対策について、事例をまじえて紹介していただき、さらに、コミュニケーションやそれを円滑にする環境が安全対策には重要であることを示していただきました。医療のみならず教育の現場でもある本学及び当センターにとって大変参考になる内容でした。

（東西医学統合医療センター 櫻庭 陽）



研修会の様子

● ハラスメント防止研修を実施

2月19日、天久保キャンパス講堂において、ハラスメントのない職場環境づくりを目的とした「平成24年度ハラスメント防止研修会」を開催しました。



講師の藤井氏

研修会では、株式会社コンプライアンス・コミュニケーションズ代表取締役の藤井裕之氏を講師に迎え、「大学における法令遵守、コンプライアンス、CSR等に関する最新情勢と対策～大学内におけるハラスメントの重大性～」をテーマに、ハラスメントに関する基礎知識や、ハラスメントに遭遇した場合の対処法など、具体的な事例を交えつつ、講演が行われました。

研修会には、110名を超える教職員が参加し、講演後は活発な質疑応答が行われるなど、ハラスメント防止に対する意識向上が図られ、非常に有意義な研修会となりました。

(総務課人事係)



講演に聞き入る参加者

● 手話指導に関する講演会を開催

2月27日、天久保キャンパスにおいて、教員の資質向上を図るため、ロチェスター工科大学・国立聾工科大学助教授 Deirdre Schlehofer 氏を講師に迎えて、「国立聾工科大学における教員への手話指導について～教職員手話プログラムの課題目標とコミュニケーション・ポリシー、評価方法～」と題した講演会を開催しました。

講演会では、国立聾工科大学で行っているアメリカ手話

通訳の教育プログラムや教育理念、カリキュラムの特徴等についてお話しいただきました。

講演後の質疑応答では、国立聾工科大学教員の手話の学習方法等について、活発な意見交換が行われ、本学の教職員への手話教育の参考となる非常に有意義な講演会となりました。

(総務課企画・広報係)



講演する Deirdre Schlehofer 氏



講演参加者との記念撮影

● 総合デザイン学科卒業制作展を開催

2月15日から19日まで、世界観ギャラリー（東京都千代田区神田）にて第4回卒業制作展が開催され、総合デザイン学科4年生14名の卒業制作（総合デザイン学特別研究）の成果が展示されました。会期中には120名以上の方にご

来場頂きました。また、16日には展示会場にて交流会が開催され、たくさんの在学生、卒業生、OB教員にご来場頂き、大盛況のうちに幕を閉じました。

（総合デザイン学科 長島 一道）



卒業制作展会場

● HCG シンポジウム学生インタラクティブ奨励賞を大学院生が受賞

保健科学専攻情報システム学コース修士2年の松坂治男さんと本学の教員を含む4名が、昨年12月に熊本で開催された電子情報通信学会のHCGシンポジウムにおいて学生インタラクティブ奨励賞を受賞しました。受賞演題は、「視覚障害者へのタブレット端末の操作方法の教示～全盲者向け講習会を通じて～」松坂治男、坂尻正次（筑波技大）、三浦貴大（東大）、巽久行、小野東（筑波技



松坂さんと賞状

大）です。

松坂さんは、これまでSPAN（視覚障害者パソコンアシストネットワーク）というパソコンボランティア団体で、視覚障害者を対象としたパソコン講習を全国各地で実施してきました。23年4月に本学大学院に入学してからは、普及し始めていたスマートフォンなどのタブレット端末に着目しました。視覚障害者がタブレット端末を使用する上での問題点などを調査により明らかにし、視覚障害者の利用促進と普及を目的として研究を進めてきました。受賞した研究では、全盲者向けのタブレット端末の講習会をおこない、その結果から全盲者向け講習会のための運営指針を策定しています。今後はSPANなどの活動でこの研究成果が活用され、タブレット端末の全盲者への普及の一助になるものと大いに期待されるところです。

（情報システム学科 坂尻 正次）

● 第5回全国視覚障害者学生柔道大会で学生が入賞

12月22日から23日にかけて、静岡県浜松市武道館において、第5回全国視覚障害者学生柔道大会が開催されました。保健科学部からは、屋比久匠さん（保健学科理学療法専攻）、小林史弥さん（情報システム学科）、熊谷祐太さん（情報システム学科）の3名が出場しました。

結果は、個人戦では屋比久さんが81kg級で優勝、小林さんが73kg級で3位、熊谷さんが66kg級で優勝しました。また、団体戦では2位でした。

（障害者高等教育研究支援センター 村上 佳久）



大会後に賞状とともに撮影に応じる学生

● 平成24年度技術科学研究科修士論文最終発表会を開催

技術科学研究科では、2月6日、天久保キャンパス大会議室及び春日キャンパス136会議室において、産業技術学専攻2名、保健科学専攻の大学院生2名の計4名による「修士論文最終発表会」が公開で実施されました。

修士の学位を目指してのこれまでの研究活動の集大成として、研究成果について自信をもって発表していました。それぞれの会場には、在生を含め多くの参加者があり、活発な質疑応答が行われました。

(聴覚障害系支援課教育支援・大学院係)



保健科学専攻の発表



産業技術学専攻の発表

● 公開講座「中高年の健康チェックと転倒予防」を実施

2月9日、市民一般を対象とした公開講座「中高年の健康チェックと転倒予防」が、東西医学統合医療センターを会場に実施されました。

この講座は、中高年者を対象に健康と転倒に関する講義を行い、その後施行する体力測定をもとに個別的な運動指導を実施することで、地域住民への転倒予防対策に寄与することを目的に開講されました。講師は、保健学科理学療法学専攻の石塚和重教授、木下裕光教授、松下昌之助准教授及び中村直子助教が担当しました。

(総務課企画・広報係)



バランスチェックをする受講生

● 保健科学部保健学科教職課程設置認定について

保健科学部保健学科において教職課程の設置が認定され、平成25年4月入学者から下記の教育職員免許状が取得可能となりました。

- ・中学校教諭一種免許状（保健）
- ・高等学校教諭一種免許状（保健）

※詳細につきましては、視覚障害系支援課教務係（029-858-9507、9509）にお問い合わせください。